

増刊

2024年1月発行号 (Vol.42 No.2)

All JAPANで挑む アカデミア創薬研究の最新戦略

最先端技術支援の活用により加速するあなたの創薬研究

(仮題)

編集／善光龍哉（国立研究開発法人日本医療研究開発機構創薬事業部医薬品研究開発課），
辻川和丈（大阪大学大学院薬学研究科細胞生理学分野）

関連キーワード・技術

- ◆ 創薬支援 ◆ AMED-BINDS ◆ ゲノミクス ◆ プロテオーム ◆ 代謝解析
- ◆ 空間オミクス ◆ シングルセル解析 ◆ in silico創薬 ◆ 構造インフォマティクス
- ◆ クライオ電顕 ◆ オルガノイド ◆ ゲノム編集 ◆ 動物モデル ◆ 薬物動態
- ◆ 相互作用解析 ◆ 化合物ライブラリ

本実験医学増刊号では、先生方が進められている創薬研究に資する先端研究成果、研究戦略や高度な基盤技術等の最新の情報をご紹介いただきたいと思います。そして本書で知り得た知識、情報や技術とともに生命科学・創薬研究支援基盤事業(BINDS)の支援基盤が、生命科学研究や医療に携わる研究者や学生の生命科学の基礎研究の展開と、その成果に基づくアカデミア創薬研究の加速への一助となることを願い、本書の構成としたいと思います。(编者より)

本号へのご出稿のポイント

● イマドキの創薬研究の戦略と支援の実態を総力特集!

最新のシーケンスや質量分析、構造インフォマティクス、そしてAIの進歩で創薬研究はどうなっているのか

● AMED(日本医療研究開発機構)の創薬支援事業「BINDS」にも編集に協力いただいています

● アカデミア(生命科学・創薬化学)や製薬企業の基礎研究者から、臨床研究を行う医師まで幅広い読者が見込まれます

広告料金表

| ページ広告 | | | |
|-------------------|----------|------|-------------------------|
| 掲載面 | 刷色 | スペース | 掲載料金 |
| 表紙4 | 4色 | 1P | 330,000 |
| 表紙3 | 4色 | 1P | 220,000 |
| | 1色 | 1P | 165,000 |
| 表紙2 | 4色 | 1P | 275,000 |
| | 1色 | 1P | 187,000 |
| 中付※ (記事中) | 4色 | 1P | 165,000 |
| | 1色 | 1P | 121,000 |
| 後付 | 4色 | 1P | 165,000 |
| | 4色(ブリード) | 1P | 181,500 |
| | 1色 | 1P | 99,000 |
| 差込 | 1色 | 1/2P | 60,500 |
| | | 1枚 | 220,000 |
| タイアップ広告 (記事広告) | 4色 | 2P | 掲載費330,000 編集費88,000 |

※ 掲載頁をご指定の場合は10%増の費用を申し受けます
 ※ 中付(記事中)は1カ所につき1団体1頁のみ掲載可能です
 ※ 表示価格は10%税込の価格です

発行概要

発行部数 6,000部
 発行形態 B5版,フルカラー,オフセット印刷
 発行予定日 2024年1月19日(金)
 広告申込締切 2023年11月27日(月)
 広告原稿締切 2023年12月1日(金)
 ※ 日程は変更になる場合がございます
 広告仕様 1頁 天地220mm×左右150mm
 1頁ブリード版 天地257mm×左右182mm
 表紙4 天地192mm×左右150mm
 表紙4ブリード版 天地202mm×左右160mm
 1/2頁 天地105mm×左右150mm

記事広告

① 貴社にて完成原稿をご用意いただく場合
 広告上部(右上など)に『PR記事』の旨をご明記ください。編集費は発生しません。
 ② 弊社で製作する場合
 貴社でご用意いただく原稿をもとに製作します(掲載費+編集費を申し受けます)。詳細はお問い合わせください。

原稿製作に際して

- Adobe社の製作ソフト(Illustrator等, ver.2021まで対応可)にてご製作のうえ, EPSもしくはPDFにてご納品ください。また, 使用したOS・ソフトのバージョンをお知らせください
- テキストは完全アウトライン化し, カラー形式はCMYKにご設定ください(モノクロの場合はK版のみで制作, もしくはグレースケール化)
- 写真や図版は元ファイル(リンクファイル)を同送もしくは埋込処理ください
- ブリード版(裁ち落とし)は広告4辺に塗り足し+3mmをご用意ください
- トンボ等を用いて仕上がりサイズをご指示ください
- “オーバープリント設定”にご注意ください(設定次第でテキストやオブジェクトに意図せぬ色の変化や消失が起こる可能性があります)
- 原稿修正をご要望の際, 費用が発生する場合がございます

【発行元】

株式会社 羊土社
 〒101-0052
 東京都千代田区
 神田小川町2-5-1
 TEL: 03-5282-1211
 FAX: 03-5282-1212
 URL: www.yodosha.co.jp/

【広告総代理店】

株式会社 エー・イー企画
 〒532-0003
 大阪市淀川区宮原
 2-14-14
 新大阪グランドビル6F(大阪オフィス)
 TEL: 06-6350-7162
 FAX: 06-6350-7164
 E-mail: adinfo@aeplan.co.jp

●販売会社への情報共有について

貴社が広告掲載することを広告内容とともに, 本書発行前に販売会社(理化学機器・試薬等の商社や書店など)へ伝達する場合がございます。これをご希望されない場合はお申込時にお知らせください(お知らせない場合は伝達させていただきます)。

広告掲載申込書

下記の通り, 広告掲載を申し込みいたします。

年 月 日

掲載雑誌・書籍名: 実験医学増刊Vol.42No.2「All JAPANで挑む アカデミア創薬研究の最新戦略」

貴社名: _____ TEL: _____ FAX: _____

所在地: 〒 _____

担当者名: _____ 所属: _____ E-mail: _____

広告内容: 具体的にご記載ください
 (ウェブサイトURLも可)

掲載場所: _____ 頁/枚 _____ 掲載料金: _____ 円

支払方法: _____ 支払日: _____

実験医学・羊土社書籍
 へ初めて広告申込する
 (もしくは過去に掲載
 したか不明)場合はチ
 エック→



- 序にかえて……………辻川和丈（大阪大学）
⇒創薬プロセスと各ステップで重要なポイント・視点と本書の使い方、章や各論の概説について執筆する。

総論 アカデミア創薬研究の展開と BINDS による生命科学・創薬研究支援

1. ターゲットタンパク質の構造解析からアカデミア創薬への展開……………井上 豪（大阪大学）
2. アカデミア創薬推進における AMED-BINDS の取組み……………善光龍哉（AMED）
3. 東京大学創薬機構のアカデミア創薬研究支援と将来に向けた取組み
……………金光佳世子、小島宏建（東京大学）
4. 大阪大学創薬サイエンス研究支援拠点におけるシームレスな創薬研究支援体制
……………川脇公子、辻川和丈（大阪大学）

第1章 最新の疾患標的分子の探索・評価技術

1. 生体試料を用いたゲノミクス解析……………桃沢幸秀、渡辺貴志、山本一彦（理化学研究所）
2. 多面的なタンパク質情報を取得する定量プロテオーム解析……………大槻純男（熊本大学）
3. 空間オミックス解析……………落合 博、大川恭行（九州大学）
4. 1細胞/微小組織マルチオミックス解析……………由良 敬（早稲田大学）
5. clickable 光親和性標識プローブを用いた標的分子同定
……………丹羽 節（九州大学）、喜井 勲（信州大学）、細谷孝充（東京医科歯科大学）
6. 次世代型 Fc 融合法による超効率的な疾病関連蛋白質の生産……………有森貴夫、高木淳一（大阪大学）
7. エピジェネティクスの構造基盤……………堀越直樹、胡桃坂仁志（東京大学）
8. 小腸スフェロイド・オルガノイドを用いたヒト薬物動態特性および安全性の評価法の開発
……………楠原洋之（東京大学）、前田和哉（北里大学）、橋本芳樹（東京大学）
9. 慢性腎臓病モデルマウスを対象とした合併症治療戦略……………大戸茂弘（九州大学）

第2章 創薬標的タンパク質の構造解析と分子設計の革新的進歩

1. 構造生命科学や創薬を加速するクライオ電子顕微鏡法の革新的な進歩
……………牧野文信、藤田純三、宮田知子、難波啓一（大阪大学）
2. BSL3 クライオ電子顕微鏡を軸とする構造解析に基づく創薬・ワクチン研究
……………前仲勝実、福原秀雄、Hisham Docainish、喜多俊介（北海道大学）
3. クライオ電子顕微鏡法により加速する東北大学の創薬研究
……………小柴生造、七谷 圭、山本雅之（東北大学）
4. 創薬のための RNA 構造解析・分子設計技術……………近藤次郎（上智大学）
5. 標的タンパク質構造情報を駆使したインシリコ創薬分子設計……………広川貴次（筑波大学）
6. FMO 法と AI の融合による医薬品設計と相互作用メカニズム解析
……………本間光貴（理化学研究所）、福澤 薫（大阪大学）、加藤幸一郎（九州大学）

第3章 創薬モダリティの高度化と次世代動物評価モデル

1. ビルドアップライブラリー戦略による天然物創薬加速化への挑戦
 市川 聡、勝山 彬、山本一貴 (北海道大学)
2. ペプチド超高効率フロー合成法 布施新一郎 (名古屋大学)
3. タンパク質間相互作用阻害を標的とした創薬モダリティ
 伊藤幸裕、高田悠里、山下泰信、鈴木孝禎 (大阪大学)
4. CBIS 法による高感度抗体の作製 加藤幸成、金子美華、鈴木裕之 (東北大学)
5. エネルギー代謝可視化技術と応用 的場直樹、山本正道 (国立循環器病研究センター)
6. ゲノム編集技術を利用した迅速な疾患モデル動物作製
 鈴木 颯、水野聖哉、高橋 智 (筑波大学)
7. 染色体工学技術によるヒト化モデル動物作製と創薬研究への応用 香月康宏 (鳥取大学)

第4章 産官学連携によるアカデミア創薬の最新戦略

1. ヒット探索の強化に向けた DNA-encoded Library の構築 佐々木潤子、安田公助 (東京大学)
2. J-PUBLIC 日本パブリックライブラリコンソーシアムの取り組みと
 All JAPAN 化合物ライブラリ構築への展望 二川原充啓、三原久史 (アステラス製薬株式会社)
3. 橋渡し研究支援機関における医療技術実用化支援とオープンイノベーション推進
 平 将生、名井 陽 (大阪大学)

第5章 アカデミア創薬の成功事例

1. 基礎研究から臨床試験までサポートするワンストップ創薬拠点の構築
 奥野友紀子、萩原正敏 (京都大学)
2. 12 回膜貫通の難敵、アミノ酸トランスポーターを標的にして難病治療薬に挑む
 反町典子 (東京大学)